

平成 24 年度 教員免許状更新講習・シラバス

講座番号	10	講座名	学校現場に活かす社会的スキル訓練（SST）の考え方と実践技術					
担当講師		開催地	時間数	日程	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法
中谷 隆 勝見 吉彰 細羽 竜也 山崎 和子		広島キャンパス	6 時間	8 月 20 日	全教員	100 人 （最少開催 人数 3 人）	講義	筆記
到達目標		人間関係を円滑にする基本姿勢と技能を理解し、それを現場に適用できる感性をもつ。						
【講座の概要】 学級経営の成否は、教師が生徒や保護者との人間関係をいかに形成するかにかかっている。こうした問題を改善する一つの方途として、相手を理解し、自分の考えを適切に相手に伝えて、対人関係を良好にする技術である社会的スキル訓練（SST）が注目されている。SST を学校教育にいかに活用・実践していくか、先行事例や心理相談技術等を検討しながら、そのポイントを学ぶとともに、教師自身の社会的スキル向上のためのコツを会得する。								
【講座の内容】 講義 1：SST の一般的な理論と意義（担当：細羽竜也） 本講義ではまず、児童生徒の社会的スキルの実態と理論的な解釈を紹介し、児童生徒に SST を実施することの意義や目的、および国内外の先行研究の成果について紹介する。 講義 2：SST の実践技法（担当：中谷隆） 引き続き、具体的なセッションの進め方と訓練プログラムの内容をステップ・バイ・ステップで例示する。ここまでが「SST の一般的な理論と技法」の解説である。次に、「SST に関連する重要トピック」に焦点を当てて、さらに理解を深める。 講義 3：学校現場に生かす「傾聴」（担当：勝見吉彰） 本講義では、SST のみならず円滑な人間関係を築く上でポイントとなる「傾聴」について深く解説する。人と関わる際に、相手の語ることにしっかりと耳を傾けていくことは簡単なようで実際には難しい。しかし、相手を本当に理解するためには、相手が自由に語っていくことにしっかりと耳を傾け続けることはとても重要な姿勢である。カウンセリングにおいてはこのような態度を傾聴と呼び、基本姿勢のひとつとしてとりあげられることが多い。本講義では、学校教育の現場でも最近求められつつある傾聴をはじめとする「カウンセリングの基本姿勢」についてさらに深く解説する。 講義 4：発達障害をもつ児童生徒とのコミュニケーション（担当：山崎和子） 最後に、多様な児童生徒とのコミュニケーションの可能性を想定して、ADHD、学習障害、アスペルガー障害などの「発達障害」について、その特徴を概説し、彼らが「学校生活で抱える困難さ」について若干の事例を提示しながら、その「教育的配慮と支援」について考える。併せてこれらの発達障害をもつ児童生徒の「保護者の思い」についても紹介し、家庭とのより良い連携のあり方についても解説し考えてもらう。								
【備考】 試験の際は、ノート及び資料等の持ち込み不可。								

注）予備日は 8 月 25 日（土）とします。